

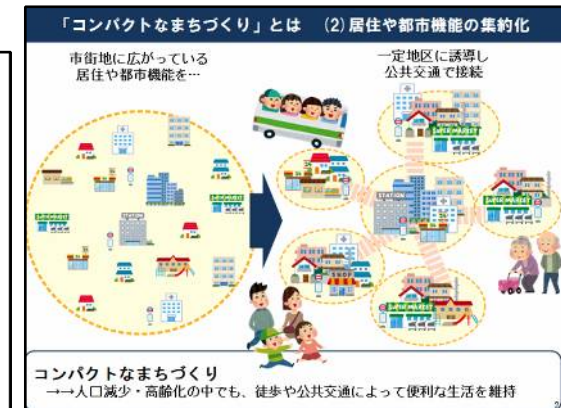
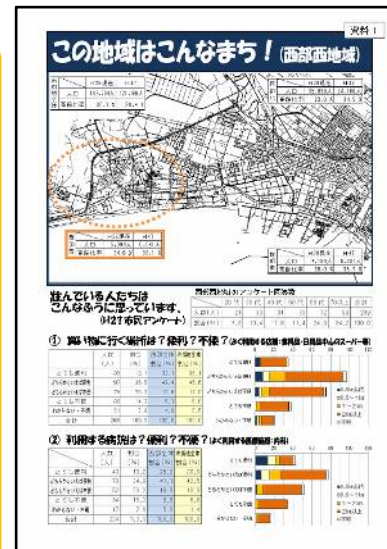
「コンパクトなまちづくりを考える住民意見交換会」 開催結果概要

開催人数及び参加者数

開催日	7月14日 (木)	7月15日 (金)	7月19日 (火)	7月21日 (木)	7月22日 (金)	7月26日 (火)	7月27日 (水)	7月29日 (金)	合計
会場	大楽毛生活館	コア鳥取	新富士生活館	芦野会館	鉄北中央会館	富士見会館	緑ヶ岡南会館	桜ヶ岡中央会館	
参加者数	23人	15人	20人	2人	11人	24人	9人	15人	119人

開催概要

- ① 市民アンケート結果概要報告
- ② コンパクトなまちづくり、及び「釧路市立地適正化計画～素案策定へのたたき台～」の概要説明
- ③ ワークショップ形式による意見交換
 - ・ 都市機能誘導区域について
 - ・ 誘導施設について



大楽毛生活館

開催日時	平成28年 7月14日(木)
参加者数	23人



地域の特徴

- ・ 三大馬市の歴史がある。
- ・ 大楽毛海岸からの景色が良い。周辺に自然が残っている。
- ・ 阿寒川・線路・工場等で地域が分断。
- ・ 周辺に買い物をする場所がない。
- ・ 低未利用地があり、開発が進まない。空地が増加。

区域設定について

- ・ バス停や駅から歩いて行ける範囲が良い。
- ・ 津波や洪水への対策が必要。
- ・ 大楽毛駅周辺を拠点とする。
- ・ 大楽毛西の方が便利ではないか。
- ・ 大楽毛駅前に拠点があっても、大楽毛南からは使い難い。
- ・ 8拠点全てに公共施設や民間施設を集約するのは困難。

誘導施設(必要な機能)について

- ・ 日常生活に必要なスーパー(小さくても良い)や内科の病院。
- ・ 津波避難施設。消防分団と支署を複合化した高層建物。
- ・ 生活館・児童センター・老人福祉センター複合化の早期実現を。
- ・ 多目的で利用できる施設。
- ・ ふれあいの場。飲食ができる場所。工業高等専門学校と地域のふれあい。
- ・ 子どもが遊べるような公園。
- ・ 神馬事記念館を利用しやすくし、地域の歴史や良さを知ってもらう。
- ・ 歴史・文化を活かした施設。
- ・ 線路による分断の解消。

公共交通について

- ・ バスやJRの便数減少は、高齢者が最も影響を受ける。
- ・ バス事業者も自ら努力が必要。
- ・ 目的地のアクセスが良く、利用したい時間帯の便があれば、利用も増加。

新富士生活館

開催日時	平成28年7月19日(火)
参加者数	20人



地域の特徴

- ・新富士生活館に住民が集まっており、地域の結束が強い。
- ・高齢化が進行。空地が増加。
- ・生活利便施設が少なく、地域の維持が不安。
- ・利便性の高い周辺地区から工場地で分断。高齢者も自家用車が必要。

区域設定について

- ・徒歩やバスで生活できれば、人との交流が生まれる。
- ・居住を考える上では、バスの利便性が重要。
- ・冬場や夜は不安だが、鳥取大通地区までなら徒歩で行くことができる。
- ・新橋大通地区のように、歩いて通院できるのが良い。

誘導施設(必要な機能)について

- ・食料品店。小さくても良い。
- ・鳥取大通地区の商業施設に支所があると良い。
- ・総合病院。
 - ・新富士に出張診療所。
- ・鳥取大通地区は内科の医療施設は充足。整形外科等その他の診療科を。
- ・介護福祉関連施設。食事等のサービス付住宅。
- ・健康づくりの運動のできる施設。屋内パークゴルフ場等の遊ぶ所。
- ・小学生が遊べる所。安全に遊べる公園。
- ・公営住宅の入居者を子育て世代優先に。
 - ・鳥取大通地区に娯楽施設。
- ・新富士生活館が老朽化。地域の交流の場として重要。
- ・新富士生活館に図書館の分館機能。
- ・様々な世代が利用できる多目的施設。

公共交通について

- ・新富士はバスが少なく不便。釧路駅からの乗り換えは時間がかかる。
- ・新富士駅から都心部までは列車で5分と便利だが、通勤者向けのダイヤ。
- ・高齢者には、新富士駅のホームまでの歩道橋を渡るのが困難。
- ・小さなバスで、適切なダイヤで鳥取や昭和を巡回するバスがあると良い。

芦野会館

開催日時	平成28年7月21日(木)
参加者数	2人



地域の特徴

- ・ 周辺に便利施設がそろっている。
- ・ 芦野周辺は、徒歩や自転車の移動に良い環境。

区域設定について

- ・ 徒歩30分程度も苦はないが、買い物の荷物を考えると10分程度。
- ・ 区域の良し悪しは、区域に何を誘導するかによる。

誘導施設(必要な機能)について

- ・ 商店が釧路町にいつってしまう。市も誘致すべき。
- ・ 高齢者が時間を気にせず過ごせる所。
- ・ 若者が働く場所。
- ・ 夜遊べる所が少ない。
- ・ 喫茶店。
- ・ 別保公園の桜並木のような市民の憩いの場。
- ・ 「釧路にしかないもの」をつくる。
- ・ 和商市場とMOOを一つに。夕日のロケーションを活かした施設。
- ・ 釧路駅前にデパートを。商業者の結束が必要。
- ・ 都心部の駐車場を利用しやすく。
- ・ イベントが夏に集中しすぎているのでは。会場も耐震岸壁で良いのか。
- ・ 野菜直売所。

公共交通について

- ・ バス路線が複雑で目的地まで時間がかかる。
- ・ 乗換料金が高い。
- ・ 大きな道路沿いにターミナルを設置し、住宅地には乗合バスを走らせる。
- ・ 末広から乗合タクシーがあると良い。

鉄北中央会館

開催日時	平成28年7月22日(金)
参加者数	11人



地域の特徴

- ・ 中部南地域は生活利便施設が充実。
- ・ 柳町公園や釧路川沿い等、市民の憩いの場がある。
- ・ 都心部には居住が少なく、商業機能も衰退。
- ・ 釧路駅は市街地の中心。駅が良くなれば、人の流れも変化する。

区域設定について

- ・ 現在の施設が永久的にある訳ではない。
- ・ 施設を誘導するための用地の確保が必要。
- ・ 駅北口を都心部として一体的に見るため、駅高架化や周辺道路網の見直しが必要。
- ・ 児童館、学校、保育園を区域に含めるべきでは。
- ・ 機能集積軸の考え方も記載すべき。

誘導施設(必要な機能)について

- ・ 「これが釧路」という情報発信の場が必要。面的な情報発信。
- ・ まちなかに総合病院。
- ・ MOO周辺に和商の機能を。
- ・ 閉めたままのホテルの対応を。
- ・ 大津波等の災害に対応する施設。
- ・ 住宅、マンション、学校等、人を住まわせることが必要。
- ・ 高齢者が歩きやすい環境整備。歩道に休憩用ベンチを設置する等。
- ・ 子育て世代のための小児科、産婦人科。
- ・ 地域コミュニティによる子育て支援。
- ・ 地域住民が結集して活動できる仕組みや場所。
- ・ 公園や緑地等、まちなかでリラックスできる場。
- ・ 駅地下道の行き来は高齢者には困難。
- ・ 高架と周辺道路網の見直し。
- ・ 鉄道高架でバスの行き来が円滑化。避難施設にもなる。

富士見会館

開催日時	平成28年7月26日(火)
参加者数	24人



地域の特徴

- ・公共施設があり、春採公園周辺は住民の憩いの場。
- ・歴史のある地域だが、高齢化が進んでいる。
- ・市立釧路総合病院等の大病院の他、医療施設が充実。高齢者には安心。
- ・買物をする場所がない。自家用車は必須。
- ・市立釧路総合病院周辺は公共交通の利便性が高いが、その他は不便。

区域設定について

- ・市街地自体を縮小すべき。
- ・津波を考慮して高台に。
- ・学校跡地や公住跡地に施設を誘導。
- ・学校を中心とした集約化。
- ・今住んでいる所に誘導すべき。
- ・武佐の森や湿原等の豊かな自然も、暮らしの大事な点。
- ・地域内に坂が多い。高齢者には上り下りがたいへん。
- ・都心部から同心円で、周りを準住宅街、その周りを住宅街とする。
- ・長い期間をかけて誘導するならば、新たな拠点形成の考え方を持つべき。

誘導施設(必要な機能)について

- ・都心部に商業施設がなければ活性化しない。北大通に百貨店、デパート。
- ・都心部に観光施設が不足。朝に客船が来ても店が開いていない。
- ・歴史的なものを観光資源に。
- ・長期滞在の施設。
- ・メディカルツーリング。
- ・北大通の広い道路を有効活用。
- ・小さなスーパー。
- ・米町地区に商店を。
- ・基幹病院とあわせて掛かりつけ医の配置も必要。
- ・室内パークゴルフやカラオケのできる所。
- ・介護施設
- ・廃墟になっている公住を新しく。
- ・会館の運営が困難。町内会統合。
- ・既存施設を利用した都市機能集約。
- ・公共施設の集約化。
- ・児童館、地区会館等を複合したコミュニティの中心となる施設。

公共交通について

- ・大型バスでなくても良い。
- ・バスにも乗れないような人への対策を。

緑ヶ岡南会館

開催日時	平成28年7月27日(水)
参加者数	9人



地域の特徴

- ・車を利用すれば、周辺に生活利便施設がそろっている。
- ・パークゴルフ等を楽しめる公園が近くにある。
- ・大学や高校が集まった文教地区であり、若者も多い。
- ・災害に強い。防災意識の変化から、周辺で住宅の新築等も増加。
- ・市立釧路総合病院周辺の公共交通の利便性が高い。
- ・地域内に坂が多い。高齢者には車が必要。

区域設定について

- ・災害に強い地区に設定すべき。
- ・武佐のショッピングセンターや貝塚の商業施設も重要。

誘導施設(必要な機能)について

- ・コンビニの役割が高まっている。
- ・宅配サービスを行う店舗。
- ・いつでも診てもらえるような個人病院。
- ・治安の悪化が不安。近くに交番があると良い。
- ・健康づくりのための施設。
- ・子どもが遊べる公園。
- ・会館の維持が不安。施設の複合化も必要では。

公共交通について

- ・バスの本数が少ない。バス停の間隔が不適切。
- ・バスは住宅地まで入って来ない。将来的にはタクシーを利用するのは。
- ・高校前のバス停が混雑していて乗れない。
- ・坂の上下間、拠点内を循環するバス。
- ・大きなバスでなくコミュニティバスで良いので、住宅地の中まで運行を。
- ・自家用車の運転ができなくなってからは、一人でバスに乗るのも困難。早い段階から交通手段の転換を図るべき。
- ・慣れてくれば、バスを事前に調べ、計画を立てて行動が可能。

桜ヶ岡中央会館

開催日時	平成28年7月29日(金)
参加者数	15人



地域の特徴

- ・炭鉱で栄えた時代に人口増加。生活利便施設や娯楽施設が立地。
- ・災害に強い地域。
- ・住民の団結が強い。
- ・起伏が多く、バス停を利用するのも高齢者は苦勞する。

区域設定について

- ・地域の地形を考えると、徒歩圏は300m程度。
- ・商店街を意識。
- ・災害の視点を考慮。東部は津波災害に強い。
- ・拠点ごとに特徴を持たせては。桜ヶ岡を福祉施設に特化した拠点とする等。
- ・民間の大型店舗を核とする拠点は、店舗がなくなれば維持できないのでは。
- ・区域設定は資産価値に影響するのでは。

誘導施設(必要な機能)について

- ・スーパー、老健施設、病院等を一体的に整備することで、周辺にさらに機能が集積するのでは。
- ・公園は歩いて行動する際の休憩場所に。
- ・交番が不足。
 - ・支所事務はコンビニで代用可能。
 - ・健康づくりのための多目的施設。
- ・福祉施設。
- ・介護施設入居者の家族の簡易宿泊施設。
- ・公住の空家をデイサービスセンターに。
- ・使われていない社宅を若い世代に安価で提供。
- ・働く場。
- ・娯楽施設。
 - ・地区連の支所。
- ・野生動物がいる公園。学校跡地を公園としては。
- ・公共施設を集約し、複合施設を整備。

公共交通について

- ・バスが拠点間のみ運行すれば、自然と誘導されるのでは。
- ・大型バスではなく、地域内を循環するコミュニティバスが必要。